

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1回／月の施設会議で理念の確認、復唱を行い、理念の浸透を図るとともに、利用者全員のA DL状態、介護方法の検討、情報伝達・共有の場や、事故の振り返り、身体拘束等確認、意見交換の場を設けている。食堂、休憩室、事務所に理念を貼りだしている。	開設時職員と話し合い独自の理念を作り、見やすい所に掲示している。地域における事業所の使命・職員の使命・利用者への思いなど大切なことが全て含まれており、毎月の会議で復唱することで共有し、実践できているか確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の農業用水清掃などに参加している。また、地域の祭りである「稲の虫送り」も花みずき駐車場まで来て頂いて。毎月地域に便りを発行し、事業所の活動を見ていただいたり、不要な布類等募ったり、ボランティアの協力を呼び掛けている。2回／年のお祭りを開催し、地域の方や児童を招いている。	地域の草刈や農業用水清掃など積極的に参加し、ともに暮らす地域住民の一員として、地域で必要とされる役割を担うよう努めている。また、事業所便りを全戸配布または回覧板で回しており、情報発信に努めている。納涼祭には地区の小学校全児童にも案内を配布し、地域の方や児童・ボランティアなど百名以上の参加があり、屋台やスイカ割り・福祉車両体験など大盛況だった。秋には収穫祭もあり芋ほり体験など地域の方と楽しんだ。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成25年6月23日に地域住民26名、8月7日には銀行職員26名を対象に、認知症サポーター養成講座講師派遣を行った。他にも毎月発行の便りに講師派遣案内を記載している。小学校児童の体験学習も受け入れ、ふれあいの時間の中で、高齢者の現状や状況を説明している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご利用者の状況や、活動状況を資料やプロジェクトで報告したり、研修や評価への取り組みを説明している。意見や改善など出た場合は取り組みを行い、次回の会議で報告している。	併設事業所と合同で2ヶ月に1回開催し、利用者・家族・市職員・包括職員・自治会長・民生委員・有識者などが参加している。活動状況報告や意見交換を行い、出された意見は検討し、取り組んだ内容について次回の会議で報告している。議事録は市のホームページに掲載している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議内で、市町村職員に活動状況を報告するとともに、災害時の対応方法やアクシデント対策などアドバイスをいただいている。毎月発行の便りを市役所下田サービスセンターに届け、活動内容を報告している。市による認知症施策総合推進事業に事業所からメンバーとして参加している。	高齢介護課の職員が運営推進会議に出席し、災害などについてアドバイスをもらっている。また毎月事業所便りを届け活動状況を報告している。認知症サポーター講座や家族介護支援事業など市と協働し、この度「認知症予防のためのいきいき手帳」の作成に携わった。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1回／月の定期会議内で身体拘束にあてはまる事はないか、また、利用者が不穏状態とならないよういろいろな対応方法を会議内で検討したり、振り返りを行い確認している。施設内研修で身体拘束・虐待に関する研修を行い、理解を深める機会を設けている。	定期的に研修している。会議の中で該当することは無いか話し合い、利用者1人ひとりの対応を検討している。不穏になり易い方に対し、安全を確保しつつ身体拘束を回避するためには早期に介入することが重要と考え、統一したケアに努めている。施錠はせず、外に出たい方には付き添って外に出るなど無理強いせず自由な暮らしを支援している。		
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	1回／月の定期会議内で虐待にあてはまる事はないか、会議内で検討したり、振り返りを行い確認している。施設内研修で身体拘束・虐待に関する研修を行い、改めて気付きを感じ取ってもらい、理解を深める機会を設けている。言葉の虐待についても、常にケアするなかで注意を払っている。	独自の指針を基に定期的に研修で学び、何が虐待にあたるのか認識している。毎月の会議で振り返ったり、気づいたことはすぐに伝え防止に努めている。特に利用者と接する時は気持ちのこもっていない声かけにならないよう気をつけている。また、職員のストレスにも配慮し、職員の話をよく聞くことを心がけてストレス軽減に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要と思われるケースがあれば、家族へ働きかけ、市役所と連携し、実施に向けて取り組む。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書・重要事項説明書、利用料等家族の前で読み上げ、十分に説明を行っている。改定時等、文書による周知と電話連絡で説明を行っている。解約時は再契約の可能性、他施設利用時の情報提供、相談援助等対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の自治会を作り、1回/月に利用者と職員の話し合いの場を設けている。利用者からの声や訴え等可能な限り実践に取り組んでいる。決定事項等あれば、連絡ノートで申し送り全職員への周知を図っている。ご利用者からの希望等についての取り組みなど、運営推進会議内で報告している。今後、ご家族に対してアンケート調査を行った。	利用者の自治会があり、食べたいものや行きたい所など意見を聞き、可能な限り支援している。言葉の少ない方にも意識的に話しかけ聞くようにしている。年1回家族アンケートを実施し、環境整備や外出支援・身体機能の向上など意見をもとに改善したことや取り組んだことなどを家族に報告している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日常的に意見等言い易い環境作りに努めており、定期会議やカンファレンスでは職員の意見や提案等聞く機会を設け、可能な範囲で業務に反映させている。	毎月の会議で意見を聞いている。管理者は介護業務に入る機会を持ち、現場の動きの中で思うことがあれば声をかけるなど積極的に意見を聞き、実現可能であればすぐに実施している。窓から景色が見やすいよう家具の配置を変えたり、利用者が座って洗濯物が干せるような物干しの購入など提案をサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として正職員への登用制度、資格手当支給制度があり、また異動希望調査があり、希望する部署や職種へ異動の機会がある。資格取得の場合は、それを活かせる業務体制がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	園内研修への参加、バックアップ施設の研修参加、外部研修への参加等積極的に勤めている。今年度は、資格取得支援として、介護支援専門員受験講座を開いた。また、法人としてスクーリング参加時の特別休暇制度がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に出かける折を利用し、同業者との交流の機会をもってもらっている。また、他施設の行事へも積極的に参加し、訪問時を利用し交流している。更に、認知症介護実践者研修の実習を受け入れ、実習を通しての交流を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接を行い、ご本人・ご家族の意向を聴きとり、独自のアセスメントからケアプランを作成している。日々の業務の中でも関わりの時間を多く設け、声かけや、気軽に話していただくよう傾聴に努め、信頼できる関係作りと安心して利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時でご家族の意向を伺うとともに、日々の面会の中でも不安なこと・要望を聴き、遠慮せず話し合えるよう配慮している。今後についての相談を受け、選択肢を提案し、対応・検討することで安心していただける関係作りを努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が必要としている支援が何かを把握し、実施できる支援と、対応が難しい支援を明確にし説明している。対応が難しい場合は、提供できるサービス内容を説明し、必要なサービスを一緒に検討している。また、他サービス機関の情報も随時提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の、その時々々の想いに共感し、想いを知ることにより、互いに支え合い、尊厳を保持できるよう配慮している。また、得意な分野を披露していただいたり、スムーズに作業が取り組めるなど、心地よい雰囲気作りができるよう努めている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者の日頃の様子を掲載した「花みずき便り」を毎月送付し、行事など参加案内を出したり、衛生用品を届けていただいたり、家族交流忘年会を開催したり、面会の機会や施設訪問の機会を多く設け、共に支え合っているという意識を持てるようにしている。	毎月花みずき便りを送付したり、面会時や電話で様子を報告している。誕生日会・納涼祭・収穫祭など行事案内を送り、できるだけホームに足を運んでもらうことで利用者に関われるよう努めている。また家族交流忘年会を開催し家族同士の交流の機会を図っている。家族からはボランティアの申し出があるなど協力関係が築けている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	季節の催しや地域行事に参加して、地域の方と交流の機会を設けている。毎月発行の便りを地域に配布・回覧するなど、ご利用者の様子やボランティアの募集など地域の方へ知って頂けるよう取り組んでいる。また、面会者が来所しやすいよう、玄関・フロアの雰囲気や職員の対応についても配慮している。	入居時馴染みの関係について本人や家族・関係者から情報を得ている。訪問に来た方がゆっくり過ごせるスペースを設けてあり、知人の訪問の際にはお茶を出すなどしてくつろいでもらっている。馴染みの行事である風合戦の見学や図書館・良く利用したスーパーなどに行ったり、家族の協力を得て墓参りや美容院に出かけている。	入居生活が長くなる中で、本人が今まで培ってきた人間関係や社会との関係が継続できるよう、友人に電話や手紙での連絡を取り持つなど積極的に働きかけることに期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係を職員が把握し、ご利用者同士トラブルとならぬよう職員がクッション役となり調整している。また、体調や感情等でご利用者の言動にも変化がある為、築かれた関係が崩れぬよう、日々注意深く見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、相談等必要な時はいつでも連絡を頂けるよう伝えている。必要なら病院や介護支援専門員、他施設への情報提供や情報交換を行っていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者一人ひとりの想いを引き出し、ご本人の望む生活スタイルを提供できるよう関わりを持ち、日常の会話や行動の中から思いや希望をくみ取れるよう、心がけている。また、定期的に担当スタッフを交えてカンファレンスを行いご本人の望む生活スタイルに近づけるよう検討している。	利用者とは日頃からゆっくりと関わるように心がけて接し、じっくりと会話したり何かしてほしいことはないか問いかけたりしながら、思いや意向の引き出しに努めている。把握した情報は連絡ノートに記入し、職員間で共有している。また、会議では居室担当者が日頃のかかわりの中で把握した意見や要望をまとめた報告書を基に参加職員で検討し、利用者の望む生活の実現に向け取り組んでいる。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者、ご家族、担当ケアマネージャー等関わりのある方から、フェイスシートを活用して積極的に情報を集めている。家族と電話連絡をとる際や、家人・知人等が訪ねてきた時など情報収集することもある。	入居前に本人・家族から詳細なフェイスシートを活用して情報収集し把握している。これまでの介護サービス利用の経過についても、市の在宅療養手帳を活用したり、前の介護支援専門員や施設等を訪問して情報提供を受け、把握している。入居後も把握に努め、家族や訪問者等から聴き取るよう心がけ、新たに得た情報は連絡ノート等に記録して共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者個々の生活リズムを理解し、生活記録に書きとめ、心身の状態を把握したり、気付いた点など業務日誌や全体連絡ノートにて速やかに申し送り、情報の共有と統一した介護に努めている。様々なアクション(関わり)により、ご本人の力を引き出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の日々の生活での状態や課題等を職員が把握し、ご本人やご家族から、生活を送る上で の要望や意向をお聞きした上で、今までのサービスも参考に、カンファレンスで話し合い、ご本人のできる事や必要な支援を取り入れたケアプラン作成している。	独自のケアプラン作成用のアセスメントシートを活用して一人ひとりの状態を詳細に把握し、その情報や本人・家族の意向を取り入れながらカンファレンスを行い、課題解決に向け医学的アプローチ・環境改善アプローチの両側面から整理し、具体的なサービス内容を決め、現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月毎にサービス担当者会議を実施し、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に日々のご本人の様子や行事等の活動の記録を記し、連絡ノートには職員の気付きやご利用者の対応方法を書き込んだり、日々のご利用者・職員の声も大切にし、情報の共有を図るとともにモニタリングやケアプランの見直しへつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や家族の状況に応じて受診の送迎、同行など柔軟に対応している。健康面でも必要なら書類を作成し、家族を通してかかりつけ医に相談したり、受診同行して医師に症状を伝えるなど、連携をとりながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	図書館にかけ、趣味活動の参考となる書物を借りている。踊りやハーモニカ等ボランティアの方から定期的に来ていただき、楽しみの時間を設けている。地域の小学校の運動会や文化祭見学に出かけている。天候のよい時は散歩に出かけ、近所の住民と挨拶を交わしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本としてかかりつけ医に受診することとしている。必要時はかかりつけ医にご利用者の状態や施設での様子を経過をおって記入、受診の際の参考にしてもらっている。また、必要なら状態説明のため、同行受診も行っている。家族状況など考慮して往診も依頼している。	本人・家族が希望するかかりつけ医での受診となっている。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な場合にはタクシーを手配して病院で落ち合ってもらおうとするなど、必要な支援を行っている。家族同行の受診の際には医師宛の経過報告書を用意したり、必要に応じて職員が同行して状態の説明等を行い、情報提供を行っている。また、医師とは相談したり質問票を提出してアドバイスを頂くなど日頃から連絡をとり、関係構築に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者の日頃からの体調管理や状態の変化に注意し、必要なら小規模の看護と情報を共有し、話し合いを行ったりアドバイスをもらう事で、適切な支援を行えるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、毎月発行の便りをご利用者に届け、病院に看護師から情報を聞き、状態把握に努めている。退院時等にも病院へ出向き、関係者と情報交換を行ったり、必要なら家族・病院関係者とのカンファレンスも実施する体制がある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の重度化には、小規模多機能の設備を利用するなど、可能な限り対応するよう援助している。終末期に関しては指針を作成している。重度のご利用者であれば、ご本人とご家族、主治医の方針や意向の確認を行うとともに、体調変化時等速やかに受診や対応ができるよう支援していく。	契約時にホームが対応し得る最大のケアと看取りに関する指針について説明し、意向等を伺いながら話し合いを行ない、意向を尊重した支援につながるよう取り組んでいる。重度化した場合でも併設施設の入浴設備を利用するなど、出来る限りの支援を行っている。また、状態変化時には、本人・家族・かかりつけ医など関係者と話し合い方針を決定・共有し、家族の不安軽減に努めている。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員を対象に急変時の対応方法や連絡方法について研修を行っている。初期対応、連絡体制などマニュアルを作成し、速やかに行動できる体制を整えている。マニュアルは日頃から確認できる場所に設置してある。	日中や夜間、職員1名の場合など、状況別に詳細に対応方法が記載された対応マニュアルや、緊急時にも慌てずに対応できるような解りやすい連絡手順フローなどが整備されており、定期的にマニュアル・フローを用いての研修や、AED操作・心肺蘇生等の救急救命訓練を実施し、全職員が実際の場面で活かせる知識・技術を身につけている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	1回/年の緊急連絡網訓練、2回/年の避難訓練を実施している。9月には自治会長・他2名地域の方の参加する避難訓練を行った。火災時は消防署からの連絡で消防団から避難補助を受ける体制となっている。事業所からの連絡で、自治会長と近隣住民やセコムから避難補助を受ける体制となっている。	併設施設と合同で、年2回の昼夜を想定した避難訓練と、年1回の緊急連絡網訓練を実施している。避難訓練は具体的に詳細な訓練計画を作成して実施し、立ち会った消防署員からも評価されている。地域との協力体制については、自治会長や近隣住民に協力依頼がしてあるほか、警備会社や地元消防団の支援が受けられる体制となっている。また、災害備蓄品やガスコンロ、発電機なども準備されており、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であり、尊敬すべき存在であることを常に意識し、プライバシー・プライドを傷つけないよう配慮し、一人ひとりに合わせた声かけや対応を、常に心がけています。	接遇研修を実施し、全職員が適切な言葉使いやプライバシーへの配慮について学んでいる。また、会議でも振り返りを行い、不適切な言葉使い等を行わないよう周知徹底している。基本を学んだうえで、利用者の日頃の様子を観察し、その人一人ひとりに合わせた対応を行なっている。また、相手を尊重し、個別に気持ちを込めて接するよう心がけている。トイレ誘導も本人を傷つけないよう、さりげない言葉かけや対応に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的な会話の中や1回/月の自治会の中で、ご本人が口にした希望や関心ごとなどをとりあげ、可能な範囲で実践につなげている。入浴時、着替えはご自分で衣類を選択してき、着替えて頂いたり、ご本人が選択しやすいように声かけなど配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課となっている体操等の他にも、個々のご利用者のニーズを把握し、散歩などの付き添い、思いおもいの趣味活動支援、レクリエーション活動を行えるよう配慮している。また、ご利用者が発する何気ない一言を聞き逃さず、したい事ができるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望される方は、床屋に散髪の予約をとり、事業所に出張して頂き、散髪、髭そりを行っていただいている。ご家族と行きつけの美容院に外出するご利用者もいる。身だしなみについてはご本人ができる方にはご自分で行ってもらう他、お化粧品セットを用紙し、楽しみながら気分転換を図っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に調理の手伝い、盛り付け、後片付けなど行っている。定期的に個々の好みのメニューで出前をとったり、自治会で希望された食材等献立に取り入れ、楽しみのある食事となっている。	献立は、栄養食事委員会の職員が、利用者の好みやホームで作った旬の野菜などを採り入れながら立てており、法人の管理栄養士により栄養バランス等のチェックも受けている。調理、盛り付け、後片付けなど個々の力に合わせて職員と共に行い、また、月1回ラーメンなど好みの出前を取ったり、利用者の自治会で希望されたメニューを取り入れ、食事を楽しめるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1回/月に体重測定を行い、体重の推移を管理しつつ食事量等調整している。食事量低下がみられるご利用者には別食材を用いたり、栄養補助食品を組み合わせて食事量の確保に努めている。嚥下障害のあるご利用者には水分ロミ等対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯みがきやうがい、デンタルリンス、口腔清拭等その方に合った口腔ケアを行い、必要であれば介助を行っている。夜間はポリドントを使用し、義歯の清潔を保っている。職員全員で口腔ケアに携わるよう心がけ、一人ひとりの口腔内状態の把握や清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜ともトイレ、またはポータブルトイレで排泄して頂くよう心がけている。食事の前後にも声かけ、トイレ誘導を行っている。希望時以外も表情や仕草から、適宜トイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄を大切にしており、定時誘導のほか、利用者の様子から察知し、できるだけ自立にまかせながら身体機能に応じてサポートしている。現在、紙オムツを使用している方はいないが、パット類の使用は状態や時間帯などに合わせて厚さを調整するなど、本人に合わせて家族とも相談しながら細やかな対応を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて、排便のリズムや量・状態の観察を行い、適宜下剤等の調整を行っている。自然な排泄を目指し、水分多めの対応や、朝・昼食時のオリゴ糖摂取、水分に乳製品を取り入れている。また、散歩やリハビリバイクなど適度な運動の機会も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご本人の希望やタイミングに沿った入浴方法でゆっくりと入浴していただくよう努めている。毎月1週間程度入浴剤を使用したかわり湯に入浴していただくなど、楽しみのある入浴時間となっている。	週2回、午後入浴を基本としているが、希望があれば回数や時間帯の変更に対応している。併設施設の機械浴槽の使用も可能であり、重度の方にも対応している。ゆっくりと入浴してもらうよう心がけ、拒否される方には無理強いせず、タイミングを変えたり声掛けを工夫し、一人ひとりに合わせた入浴支援を行っている。入浴剤を使用したり、時にはゆず湯などの変わり湯を用意し、楽しむ工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を把握したうえでレクリエーションや運動、外出を活用し、休息のリズムがとれるようにしている。眠れない時などはお茶を提供し、安心できる声かけをするなど、落ち着かれるまで寄り添った支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局からの薬剤説明書はご利用者個々の薬保管ケースに入れてあり、薬をセットする際のチャック付き収納バックにも薬剤名、効能等記載している。ご本人が内服するまでに3度のチェックがあり、安全な与薬に努めている。薬の内容に変更があった場合は速やかに記載内容を修正している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備を始め、洗い物やたたみ物等、ご利用者の経験や能力を活かしていただく機会を設けている。できることを行って頂く事で役割と意欲を持ち、張り合いのある生活を送れるよう支援している。個々の趣味に合った散歩や生け花、畑作業、DVD観賞の他、季節に合った行事や外出も支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご利用者の希望に応じ、買い物同行、代行支援をしたり、事業所の物品購入の際もご利用者に声をかけ、希望があれば買い物同行の支援をしている。天候に応じて全ご利用者を対象としたドライブや、地域行事見学等も行い、気分転換を図っている。本体施設と合同で村松公園花見や弥彦菊祭りにも参加した。	日頃から天気が良ければドライブに出かけたり、個別の買い物の支援、小学校訪問、本体施設訪問、ホームの畑作業や見学、ホームの駐車場にテーブルを出してお茶を飲むなど、戸外で過ごすことを大切に支援している。また、弥彦菊祭りの観賞や村松公園の花見など、普段は行けないような場所にも、本体施設と協力して出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の可能な方は財布を所持されており、買い物時の支払いなど難しい場合に職員が支援している。自己管理が困難なご利用者であっても、ご家族よりお金を預かり、金庫に保管して外出の際に利用してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話連絡や取り次ぎなど支援を行っている。手紙などは好みの写真や家族写真などと一緒にファイルにはさみ、いつでも見れるようになっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者と職員による手作りの絵や習字、行事写真など、季節を感じさせる飾り付けを心がけ、展示し、見て感じて楽しんでいただけるよう工夫している。2回/月生け花を行い玄関やテーブルに飾っている。適度な温度調節を行うとともに、ウイルス除菌空気清浄機や加湿器を設置し、湿度の確保や、感染予防に努めている。	リビングは広くてゆったりとしており、日当たりが良く大きな窓から風景が見渡せ開放感がある。季節の花を生けたり季節毎の利用者作品を掲示して季節感を出し、習字や絵などの利用者作品や行事写真で装飾して生活感を採り入れ落ち着いた過ごせる雰囲気づくりをしている。利用者の状況に合わせてテーブルの配置換えや席変えをこまめに行い、気持ちよく過ごしてもらえるよう配慮している。また、清掃専門の業務補助員により清掃・消毒が毎日おこなわれているほか、高性能の空気清浄機なども設備され、清潔で居心地の良い空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファやテレビが設置しており、また、テーブル配置も好みに合わせ、ご利用者個々の好む場所で気の合う者同士で過ごしていただけるよう配慮し、食席や空間作りの工夫をしている。畳スペースには冬はこたつ、他に座イスも設置しており、気軽に休んでいただけるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の普段の生活スタイルに近い環境を整えるよう配慮している。日常的に使用していた寝具や家財道具、家族写真、使い慣れた生活用品など持参して頂き好みの配置をとったり、契約時にご本人の落ち着いたものがあれば持参して頂くようご本人やご家族に説明している。	本人・家族と相談し、馴染みの家具や装飾品、趣味の裁縫道具などを持参してもらい、それぞれの利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。また、利用者の作品や誕生日に職員がプレゼントした写真入り色紙などを展示し、温かい雰囲気をかもし出すよう工夫している。「夜間照明が明るすぎる」との声を受けて適切な照度の器具に変更するなど、本人の希望する環境整備にも努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示を立体的かつ、見やすい位置に示したり、居室には表札を付け確認できるようにしている。歩行器など安全かつ支障のないよう自力移動できるよう、動線の障害物に注意しつつ、スペースを確保し、見守りしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				